

2 2年間の主な研究内容（2年目の公開授業・公開保育・研究発表会を基に）

Aブロックの研究のまとめ 【公開授業・研究発表会：令和2年1月23日】
大阪市立南大江小学校（公立）・大阪市立銅座幼稚園（公立）・
大阪市立南大江保育所（公立）

公開施設 大阪市立南大江小学校
ブロックテーマ 小学校と幼稚園・保育所が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕を共有しながら、それぞれの子どものめざす姿を明らかにし、教育の連続性を意識した指導の在り方を工夫する。
施設テーマ ・交流活動を通して、学習指導要領に則った目標を立て、目標達成のための活動内容を工夫する。
・教職員との交流を深め、就学前教育と小学校教育との関連性についての認識を高める。
指導講評 兵庫教育大学 溝邊和成 教授

1 公開授業 会場：大阪市立南大江小学校

○ 2年生と年長児との交流活動

「みんなで楽しい“おもちゃランド”にしよう」

令和2年1月23日、南大江小学校体育館で2年生と年長児との交流活動を行った。（p.60参照）銅座幼稚園年長児44名、2年生120名で交流を行った。南大江保育所年長児が参加できなくなったため、2年生2～3名に年長児1名と一緒に活動することになった。

グループになった後、まず「さんぽ」を全員で合唱。その後おもちゃの紹介をおもちゃ毎に代表の2年生児童が行った。おもちゃは以下の8種類を2年生が生活科の時間に手作りした。

- ・ぴよんうさぎ
- ・うごくにんぎょう
- ・びっくりばこ
- ・さかなつり
- ・きのぼりさる
- ・ヨットカー
- ・ころころころん
- ・とことこかめ

その他に「つくってみようコーナー、パッチンガエル」を設けて、作り方を2年生が教え、年長児全員が「パッチンガエル」を作って持って帰ることができるようにした。

遊び時間が始まると、思い思いのコーナーに分かれて遊びを楽しんでいた。年長児の希望を聞いて各コーナーに行く。そして、遊び方をまず2年生がやって見せ、年長児が遊びを始めていた。



年長児が遊んでいる姿をじっと見守っている児童、一緒になって遊んでいる児童、うまく

できたことを喜んでいる児童、と児童の様子は様々だった。年長児が一つの遊びを満足いくまで行うことができるように一緒に過ごしている姿が印象的だった。



年長児は2年生が複数一緒にいるので、初めは少し緊張気味だった。しかし、遊び始めるとその緊張もすぐにほぐれていき、夢中になって遊んでいた。「つくってみようコーナー」では、作り方を教えてもらいながら真剣な表情で「パッチンガエル」を一緒に作っていた。できあがった「パッチンガエル」が勢いよく飛びあがると驚きの声をあげながら2年生と一緒に喜んでいた。

活動後は遊んだ感想をペアで伝え合った。その後全体で感想を交流した。その中で2年生の児童が「僕たちも幼稚園の子たちも楽しかった。みんな笑顔になりました」と大きな声で発表したことが本活動のよさを物語っていた。

2年生は自分たちの役割を果たして満足し、年長児は小学校生活に期待をもつことができた。

2 各施設の主な研究内容

(1) 大阪市内南大江小学校

- ・ 交流活動を通して、学習指導要領に則った目標を立て、目標達成のための活動内容を工夫する。
- ・ 教職員との交流を深め、就学前教育と小学校教育との関連性についての認識を高める。

従前より、地域にある大阪市内の就学前教育施設ということで、銅座幼稚園、南大江保育所とは子どもの交流を実施していた。年長児がスムーズに小学校入学を迎えることができるように、というねらいで行っていた。5年生と小学校のプールで交流をする取組は10年近く続いている。

しかし、小学校の指導者が子どもの発達の流れを理解し、年長児と小学生の違いを理解した上での指導という点においては不十分な面があった。また、指導者がお互いの教育内容を知ることでも十分ではなかった。

以上のような実態と課題を踏まえ、この2年間「保幼こ小連携・接続研究」に取り組み、小学校教育への円滑な接続をめざすことにした。

【交流の実践（子ども）】

- ・ 5年生—小学校のプールで一緒に入る。
幼稚園に行き園庭や保育室で一緒に遊ぶ。
- ・ 4年生—小学校のパソコン室でパソコンを用いて年長児がカレンダーを作る。そのサポ

ートをする。

- ・ 3年生—学習発表会で披露する劇のリハーサルを年長児が見学。その後3年生児童と感想の交流を行う。
- ・ 2年生—「おもちゃランド」に年長児を招待し、ペアになり、小学生の手作りのおもちゃで一緒に遊ぶ。
- ・ 1年生—年長児が授業を見学し、一緒に歌を歌ったり図画工作の作品作りを行ったりする等の活動を行う。

【交流の実践（教職員）】

- ・ 教職員が集まっての合同研修会
- ・ 主任同士の打ち合わせ
- ・ お互いの授業や給食、保育の様子を参観

【成果】

- ・ 普段、学級の中では控えめで、あまり積極的に活動するタイプではない児童がいる。しかし、年長児との交流の場面では、すすんで関わりをもち、積極的にサポートしようとする姿が見られた。
- ・ 「自分が年長児の役に立って嬉しい」という気持ちから「もっと役に立ちたい」という気持ちに高まる児童が現れた。自己肯定感が高まった。
- ・ 交流活動の中で、普段の学校生活では見ることのできない、それぞれの子どものよい面を発見する場面が多くあった。
- ・ 2年目の交流では、1年目に実施した活動の成果と課題をふまえてねらいを明確にし、より価値のある交流を行うことができた。
- ・ 「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」〔10の姿〕については、交流活動の打ち合わせや合同研修会を通して知り、理解を深めていくことができた。「遊び」の中に見られる〔10の姿〕が小学校の教育活動につながっているという実感をもち、学びの連続性を意識した声掛けや支援をするようになった。



【課題】

- ・ 今後も交流活動を年間指導計画に位置付け、これまでの成果をもとに、より実りある活動になるようにする。
- ・ 交流活動の実施にあたっては事前も含め教職員同士もコミュニケーションをとり、相互理解をより深めるようにする。

(2) 大阪市立銅座幼稚園

- ・幼稚園教育要領に基づき、遊びを通した総合的な指導を行いながら、交流活動の内容を工夫する。
- ・教職員との交流を深め、就学前教育と小学校教育との関連性について認識を高める。

【取組】

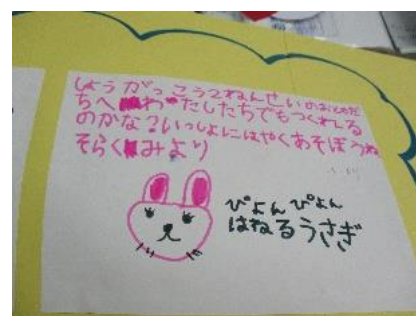
これまで継続して取り組んできた小学校や保育所との交流をより充実したものにするために、年間計画の見直しを行った。交流活動の回数を増やすのではなく、内容の充実を図れるよう、計画案に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕を参考にして育ちの見通しを記入するなど、ねらいや視点を互いに学び合える工夫をした。

南大江保育所との交流では毎年6月に幼稚園に来ていただいていたが、計画を見直し、今年度は10月に変更した。互いに運動会後の時期であったため、体を動かす遊びに興味をもつ子どもが多く、誘い合って縄跳びや一輪車などをしたり、園児が運動会で使った衣装や手作り遊具について保育所の友達に伝えながら一緒に使って遊んだりする姿が見られた。ペアで好きな遊びを楽しんだ後は、5歳児が運動会での演技を見せ合った。園児の鳴子の踊り、保育所の子どもたちのパーランクーの踊りを互いに見て、「掛け声がかっこよかった」「太鼓を鳴らして踊るのがすごい」と刺激を受け合っていた。2か月後の保育所での交流時には、10月に一緒に遊んだペアの友達のことを覚えており、会えることを楽しみにしたり、当日は再会を喜んで話しかけたりする姿があった。交流時期を見直した成果が感じられた。

このように小学校や保育所との様々な交流の実践を進める中で、当日の活動の時間だけでなく事前事後の活動を含め「知る」「出会う」「かかわる・つながる」「振り返る」の4つの段階があるのではないかと考え、交流指導案に書き加えるようにした。

1月の南大江小学校での2年生との交流活動「みんなでたのしいおもちゃランドにしよう」では、事前に教師が本園5歳児に「2年生の皆さんが“おもちゃランド”にご招待してくれるんだって」と伝えた。

すると、「おもちゃってどんなおもちゃ？」「持って帰れるの？」「どうやって遊ぶの？」と様々な質問が出てきたため「先生もわからないなあ。2年生の人たちに聞いてみる？」と投げかけたところ、早速質問を絵手紙でかき表す子どもがいた。「動くおもちゃはありますか」「一緒に遊ぶのが楽しみです」と当日の活動に期待をもつ内容や「小学校でお友達はできますか」「どんな勉強がありますか」など、就学が近づいている時期ならではの子どもの思いが表れたものまで、様々であった。



絵手紙を届けた後、2年生から大きな“遊びの図”が届くと、「おもちゃランドや！」と見入り、「“きのぼりさる”ってどうやって登るのかな」「“さかなつり”やってみたいな」など、写真から遊びを想像して期待を高めていた。

事前に活動のイメージをもつことができていたことで当日は安心して参加することができ、2年生に優しく接してもらったことで一層小学校生活への期待感が膨らんだ。

後日、「ありがとうのお手紙かきたい」と、お礼の絵手紙をかいたり、「とことこカメ作ろう」と自分なりに作ってみようと試したりするなど、楽しかった経験を思い返して活動する姿が見られた。「知る」「出会う」「かかわる・つながる」「振り返る」の段階を教師が意識し活動の見通しをもつ大切さを感じた。



【成果と課題】

各交流活動の事後には、担任間で子どもの様子を振り返り、学びの姿を交流指導案に記した。遊びの中に見られた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕を再確認することができた。2年間の研究の中で、就学前教育と小学校教育の学びの連続性を意識することができ、相互理解につながった。

今後も〔10の姿〕をツールとして共有・活用し、子どもの心身の健やかな育ちを大切に考えながら、交流活動や授業・保育参観などで互いの教育の理解を深めていく。

(3) 大阪市立南大江保育所

- ・ 交流活動を通して、子どもの姿を共有し、全体的な計画に基づいた学びの芽（基礎）を認識し、小学校の学びや生活の充実につなげる実践や活動を工夫する。
- ・ 教職員との交流をする中で、就学前教育と小学校教育の違いや共通性を明確にし、円滑な接続のための相互理解を深める。

【1年目の取組】

研究を実施する前は、年1回の就学前の交流だけだったが、幼小で行ってきた交流に保育所も一緒にと誘っていただき、次の交流が増えた。

- ① 小学校での授業参観（研究授業）
- ② 作品展の鑑賞（3年生）
- ③ PCを使ってのカレンダー作り（4年生）
- ④ 1年生の授業見学

〈子どもの変化〉

小学生や幼稚園児とのかかわりが増え、刺激を受けた子どもたちは、交流の後に「もっと〇〇したい」「どうしたら〇〇になるんやろう」と、保育所に戻ってからも自分たちで考

えたり工夫したりする姿が多く見られるようになった。特に小学校との交流の後では、自分たちの経験を「ゆりぐみになったら〇〇する」と年下の子どもたちに言葉で伝えるようになり、保育者には子どもたち自身も小学校への期待感をもっていることがうかがわれた。

〈職員の変化〉

研究授業に参加させていただくことで、保育所での遊びの経験を小学校で言語化し、やっていたことの意味を理解することで、就学前に行ってきた遊びが学びへとつながる姿を見ることができた。このことから育ちの連続性を双方が意識し指導することで、子どもが安心して期待感をもって小学校に就学していくのではないかという気持ちになった。

〈課題〉

就学前教育と小学校教育の学びの連続性について、教職員全体が学びの機会をもち、相互の理解を深めるようにする必要性を強く感じた。

【2年目の取組】

前年度に引き続き、教職員での合同研修に参加した。交流活動での子どもたちの育ちを見て「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」[10の姿]を視点ごとに意見交換し、子どもの姿・行動からそれぞれの教育の理解を図ろうとした。また遊びの中の「おもしろい」「なぜ」「どうして」を大事にしながら学びの連続性を意識した取組にしようと考えた。

〈実践例〉

① 4年生とのカレンダー作り（11月18日）

初めてのパソコン、機器の操作方法、絵の取り込み方など、カレンダー作りに必要な話を真剣に聞いていた。

4年生から「どの絵にする？」「何月のカレンダーにする？」「誕生日の月のできるで」など問いかけてもらうことで、自分はこのカレンダーを作りたいと伝え自分なりのカレンダー作りができた。

4年生はそれを見守りながら、「～した方がいいよ」「いいのができたね」などほめてくれたので、子どもたちはますます小学校へ行くことが楽しみになった。



② 幼保交流

保幼小交流の合間に幼保交流も行った。10月には銅座幼稚園に行った。普段とは違う環境で、庭の大きな固定遊具や一輪車、広い講堂など、子どもたちの目に映ったのは遊びたい所だけだった。幼稚園の子どもたちは、「今日は保育所の子がお客さんだから、合わせてあげよう」とペアを組んだ子どもの好きなようにさせてくれた。

12月に来ていただいたときは「前は自分たちの好きにさせてもらったから、今日は幼稚園の子に合わせる」と自然に声が出ていた。交流経験を通して、してもらって嬉しかったという経験が、子どもたちの中にしっかりと根付き、相手を“もてなす”という気持ちにさせていたのではないかと思う。

○12/18(水) 銅座幼稚園との交流がありました。

あいにくの雨の中でしたが、幼稚園のお友だちが保育所に遊びに来てくれました。

知香 銅座幼稚園の友だちに親しみを持ちながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。

知香 同じ年齢の友だちと刺激を受け合って遊び、進学への期待を持つ。

交流活動時には「就学前教育カリキュラム」

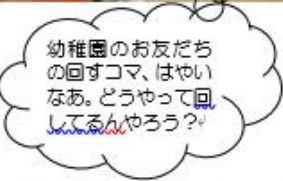
を活用して共通のねらいを立てます。



好きなコーナーで遊びました。



「次は一緒にドーム作ろう!!」



幼稚園のお友だちの回すコマ、はやいなあ。どうやって回してるんやろう?!

思考力の芽生え
道徳性・規範意識の芽生え



みんなでパーティの準備に大忙しです。

自立性
協働性
社会生活とのかかわり

思考力の芽生え
数量・図形、文字などへの関心・感覚

掲示物(保護者への活動紹介)

【成果・課題】

この研究を通してお互いを知ることからスタートし、回を重ねる中で教職員同士の子どもへの視点が重なっていることに気付くことが増え、また違いもはっきりと見えてきた1年目だった。そこからより豊かな学びへつなげるために、私たち教職員はどうすればいいのかを考え試してみる2年目になった。そして、子どもたちが遊びを通して何を学び、その学びが小学校の生活や学習にどのようにつながっていくのかを教職員が「学びの連続性」という視点でとらえ、[10の姿]を共有することでお互いの教育の理解を深めることができたと思う。

今後も同じ視点で子どもの育ちを捉え、交流活動を深めながら、子どもたちが安心して、楽しみにして就学していけるようなスタートカリキュラム、アプローチカリキュラムにつなげていきたい。

3 Aブロックの研究のまとめ

【1年目の研究の成果と課題】

- ・ 交流回数を増やすことなく、内容を検討し、児童と幼児の交流が深まるように工夫した。交流活動を通してそれぞれの年齢・発達段階による会話も成立し、心のつながりがもてた。
- ・ 教職員による合同研修を行い、互いの教育の理解が図れた。
- ・ 小学校の教務主任と幼保の主任とで打ち合わせを密に行うことにより、交流活動がスムーズ

に行えた。

- ・1年間を通して、就学前教育と小学校教育の相互理解の第1歩が踏み出せた。互いの指導スタイルを見て学ぶことができた。
- ・学びの連続性を意識し、就学前教育と小学校教育のつながりを模索しようという気持ちがあった。

◇幼児期と小学校の学びと「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕を念頭に置き、小学校との接続を意識した交流活動になるよう工夫する。

◇就学前の学びと小学校の学びの連続性について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕の系統性について、さらなる理解を図るようにする。

【2年目の取組】

- ・年度当初にAブロックの研究テーマを再確認した。
全体テーマを受けて小学校・幼稚園・保育所それぞれが研究テーマを設定した。また、保幼小の管理職と教職員とで、今年度の研究について打ち合わせを行い、年間計画を練り直して立案し、年間の見通しをもった交流活動となるようにした。(P.57 参照)
- ・今年度も交流活動の回数は増やさず、内容の充実を図るようにした。
事前事後の打ち合わせをさらに密にし、交流の計画案に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕を参考にして育ちの見通しを記入した。また、活動後にも保育の中で見られた育ちの姿を計画案に改めて書き入れた。
- ・保幼小の教職員で合同研修会を行った。
昨年度の反省をもとに交流活動での子どもの様子から育ちの姿を見取り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕を視点にしてワークショップにより分析を行った。その後、兵庫教育大学 溝邊和成教授より、交流活動に見られる育ちの姿の見取りについてご指導いただき「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕について理解を深めた。(P.53～56 参照)
- ・交流活動での子どもの姿から、「知る」「出会う」「かかわる・つながる」「振り返る」の4つの段階があるのではないかと考え、交流指導演案に書き加えた。
- ・教職員等が互いの保育・授業を参観し、教育の理解が深まるようにした。
(授業・保育参観、給食参観、校種間連携、食育を中心とした保護者啓発)

〈交流授業・保育計画立案について〉

- ・小学校・幼稚園・保育所の管理職や教務主任・主任で、活動内容や活動の日程調整、事前事後の打ち合わせの調整を行い、それぞれの担任と共有した。
- ・担任は教育課程を踏まえ、交流授業・保育案を連携を取りながら立案した。
- ・交流案は、主になって行うところがまず立案し、担任がメールや電話などで打ち合わせをしながら一緒に作成した。

〈合同研修会での学びについて〉(令和元年7月29日)

- ・始めに幼稚園から、交流活動に見られる育ちの姿の見通しを、〔10の姿〕の視点から分析し

たものを、例としてパワーポイントで示した。

- ・グループで話し合い、幼児と児童の遊びの姿を見取り、「10の姿」を視点にして分析し、ワークシートに記述して発表した。
- ・兵庫教育大学 溝邊和成教授より、「10の姿」の一つ一つの視点について、どのように捉えたらよいか、子どもの姿を例にしてご指導いただいた。
- ・「10の姿」は育てるべき姿でも育ちをチェックするための到達目標でもなく、小学校教諭と幼稚園教諭・保育士が、就学期の子どもの育ちについて具体的なイメージをもち、育ちを共有するために活用することを確認できた。

<合同研修でのワークシート>

- ・保幼小の教師・保育士でグループになり、交流活動の様子から幼児と児童それぞれの育ちの姿を読み取って、「10の姿」を視点に分析した。(以下ワークシートの記述)

…溝邊教授のコメント

「遊び込む」ことができるためには、「健康な心と体」が必要
喜んでもらえて嬉しい→健康な心

健康な心と体

遊びの場や活動	幼稚園(4・5歳児)	小学校5年生
ペアで好きな活動をする	満足感や充実感を味わう。→	幼稚園の子どもの姿を見て、満足感・充実感を味わう。
手洗い・うがい・用便	体を大切にする。	
ふれあい遊び	互いに親近感や安心感を感じることができる。	

自立心

責任をもたせていくことを促す

遊びの場や活動	幼稚園(4・5歳児)	小学校5年生
		事前に交流活動の時間を知らせていたことで、時間内にできる内容を考えて活動する。(遊ばせてあげようとする)
カプラの場合	自分(5歳)よりも高いところに積めたのは、自分の届かないところを5年生にお願いし、もしくは5年生が気付いてくれて手伝ってくれたからなのでは? →できないところを手伝ってとお願いできる力が自信につながっていくと思う。	どのように関わればよいか考え行動し、幼稚園の子どもが喜んでくれた時に達成感を味わう。

立ち位置を意識して人と関われるか（相手意識があるかどうか）

協同性

遊びの場や活動	幼稚園(4・5歳児)	小学校5年生
色水遊び	幼稚園の子どもがつくった色水に5年生が「これを混ぜてみたら・・・」と言って、いろいろな色の水ができた。 【工夫・互いの思いや考えを共有】	
縄跳び・的あてなど	5年生がやり方を教えてあげようと思っても、幼稚園の子どもが「いや」「違うのがいい」と言ったら、5年生が相手の思いを汲んで調整しようとする。 【考え方をまとめたり、自分の役割を考えて行動したりして折り合いをつける】	
プールの宝さがし	怖くて宝が取れない子どもには、5年生がおんぶして浅いところに連れて行き、体をかがめ宝が取れるようにしてくれた。 【協力・相手の気持ちを理解する】	

自分たちでルールをつくれるか、どう守っていくか

道徳性・規範意識の芽生え

幼稚園4歳児	幼稚園5歳児	小学校5年生
ルールを覚えて守ろうとする意識が働いている。	自分たちの中でルールを考えたり、つくったりしていく力が育っている。	幼稚園の子どもが決まりを守れるように声かけしたり、見守ったりする。困っている時は、解決策を提案することができる。来年、最高学年(6年生)になる準備にもなる。

遊びを通して注目される場が必要

社会生活との関わり

遊びの場や活動	幼稚園(4・5歳児)	小学校5年生
あいさつ	どんなお兄さん・お姉さんがいるのかな??	優しくしなкゃ。分かりやすく話そう。
関わり方・相手の気持ち	きちんと話を聞いてくれてよかったな。困っている時に助けてくれた。	どんな風に思っているのかな? 助けたい。〇〇ができてすごい。
遊び	教えてほしい。	こんな遊び方もあるよ。

モノとモノとの関係性・論理
 試行錯誤は論理力(思考力)を高める時間
 結論を急がず、試行錯誤の時間を保障する

思考力の芽生え

遊びの場や活動	就学前(4・5歳児)	小学校5年生
泥団子づくり	普段から遊びを楽しんでいる。5年生と一緒に遊んだことで、「すごい」と感じたり、真似をしてやってみようとしたりし、さらに遊びが広がる。	水や泥の性質が分かり、昔やっていた遊びを大きくなってからすることで、手も大きいので、大きくてしっかりした団子をつくる。
色水遊び	水の量や花の色を変えて何度も繰り返して工夫したり試してみたりする。	混色の仕方がわかり、きれいな色も分かり、たくさん色をつくることができる。
カブラ	「高く積みたい!」と発言し、5年生と一緒に高く積んだり並べたりして遊ぶ。	幼稚園の子どもの思いを汲み取り、どうやって積んだらよいかを考え、幼稚園の子どもの気持ちに寄り添いながら一緒に遊び方を工夫する。
遊びへの誘いかけ	遊びたい気持ちはあってもどうやって言葉で伝えたらよいか分からず困った表情をする子どももいる。	幼稚園の子どものどんな遊びをしたいか尋ねようとする。 「何して遊ぶ?」という聞き方をしてなかなか応答してくれないことに対して困惑しながらも、「ままごとがいい?カブラやりたい?」と尋ね方を工夫しながら思いを聞こうとする。

あらゆる感覚を研ぎ澄ます
 “つるつる” “熱い” など
 言葉のやり取り→自然へのかかわりが深まる

自然との関わり・生命尊重

色水遊び

4歳児	5歳児	小学校5年生
5歳児を模倣するがうまくいかない。	自然物の色・特徴を理解してつくりたい色水をつくる。	幼児の意図を汲んで(幼児の遊ぶ様子を見て、出過ぎず実現できるよう楽しいと感じられるように)、水の量・花・葉の量を調整、助言する。 今までの経験を活かして伝える。(幼児の様子を見守ってから・・・幼児ができるような伝え方で…)

遊びの中で数える・比べる→原体験が大切！

数量・図形、文字などへの関心・感覚

幼稚園(4・5歳児)	小学校5年生
5年生と一緒にスーパーボールや金魚すくいの数を数えて競ったり、お気に入りの形のスーパーボールを集めたりして楽しむ。	宝さがしの時、ハンデの秒数を考える。 プールの深さを考えて、水を怖がっていた子どもを、浅いところから入水させる。

→水着の名札や教室の名前などをひらがな表記しておけば園児が文字に親しみやすいのでは？

あいさつ=心が育つ第一歩
小さい頃からの経験の積み上げ

言葉による伝え合い

遊びの場や活動	就学前(4・5歳児)	小学校5年生
自己紹介	聞かれたことに対して、単語や2語文くらいで答えようとする。	つながった文章で答える。相手の気持ちや目線に合わせて、聞くこともできる。
遊び	自分の気持ち(嫌なことやしてほしいこと)を伝えようとする。	気持ちに寄り添って優しく尋ねたり、発言を待ったりする。
プール	分からないことがあれば尋ねる。	着替えの場所やプールでの約束などについて優しく伝えたり、分かったかどうか確認する。
振り返り	自分の気持ちを伝える。 5年生の言葉を聞いて真似をして言葉で表そうとする。	楽しかったことや嬉しかったこと、頑張っていたことを言葉(文章)で伝える。

感動体験を共有する

【どんな立場で】【どんな役割で】関わるかを意識させる

豊かな感性と表現

○5年生の子どもが育ったのでは？

・幼稚園の子どもが活動する様子を見て再認識する。

★色や形について1つ1つ感動している様子

「懐かしい思い出の日々」「それもありがた！」

★今はもうしなくなったこと・忘れていたことを思い返す。

★自分の経験を基に、幼稚園児に声をかける。

「こっちの方がうまくいきそう」「自分はこんな風にした」

★お互いを認める・賞賛する声の掛け合い

→小学5年生は大人や周りの人から学び、幼稚園児はその姿を見て、また自分より小さな友達に同じように関わってみようとする。

<ワークショップを通して>

- ・育ちの見通しをどのようにもつか、〔10の姿〕をどのように活用するとよいか、一緒に話をしながら書き上げていくことで具体的にイメージすることができた。
- ・保幼小の教職員が同じグループで子どものことを話し合うことで、〔10の姿〕が身近に感じられた。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕の視点が小学校の児童にも育ちの視点として使えることが分かり、学びが連続していることを実感することができた。

【2年間の研究の成果と課題】

もともと南大江小学校と銅座幼稚園・南大江保育所では、これまで継続してきた連携や交流の基盤があった。今回の指定研究事業を受け、改めて年間計画や内容を検討しながら取り組んできた。

<成果・課題>

- ・幼稚園・保育所の主に5歳児の子どもたちにとっては、小学生と関わって活動する中であこがれや期待の気持ちが膨らみ、小学校生活のイメージと期待が高まった。
- ・小学生にとっては、交流の時間だけでなく事前事後の学習時間も含め、年下の友達に思いを馳せ、優しさや期待をもって関わったことが自信を高める経験となった。
- ・交流案の立案や合同研修会を通して、教職員同士が互いの指導観を知ることができ、相互理解につながった。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕を共有し、学びの連続性について再認識することができた。

- ・取組の様子を保護者にも情報発信したことが、啓発につながった。

◇今後も子どもの育ちのつながりを考え、学びが連続していることを踏まえて、就学前教育や接続期の小学校教育において学びの芽生えを育む。

◇保幼小の教職員で〔10の姿〕をツールとして活用して共有し、子どもの心身の健やかな育ちを軸に、互いの教育の理解をさらに深めるようにする。

◇交流活動や授業・保育参観などで互いの教育の理解をしていきながら、教育課程での接続まで考えていけたらと考える。

交流・連携活動の記録（Aブロック）◎交流 △小学校主体 □幼稚園・保育所主体			
H29年度 3月	3/23 事業説明・顔合わせ・ブロック検討会	H31年度 (R元)4月	4/22 顔合わせ・1年次の研究振り返り、交流年間計画打ち合わせ
H30年度 4月	4/23 第1回研究会（講演・ブロック検討会） □小学校給食参観	5月	5/10 第1回研究会（事業説明・ブロック検討会） □小学校給食参観（担任・支援担当講師）
5月	◎交流打ち合わせ ◎幼稚園と5年生の交流（幼稚園） ◎花苗事業（花苗を届ける） □研究授業・討議会参加	6月	◎交流打ち合わせ ◎幼稚園と5年生の交流（幼稚園） ◎花苗事業（花苗を届ける） □研究授業・討議会参加
6月	□幼稚園と保育所の5歳児交流 △幼稚園見学 □研究授業・討議会参加	7月	◎幼稚園4・5歳児と5年生の交流（小学校プール） △保育所見学 ◎合同研修会・講話
7月	◎幼稚園4・5歳児と5年生の交流（小学校プール） △保育所見学 ◎合同研修会・講話	8月	◎2学期の交流打ち合わせ □小学校授業見学（校種間連携）
8月	◎2学期の交流打ち合わせ	9月	□小学校授業見学（校種間連携） □小学校運動会参観(担任)
9月		10月	□幼稚園4・5歳児と保育所の5歳児交流（幼稚園） □研究協議 ◎保・幼5歳児と3年生の交流（小学校学習発表会見学）
10月	□研究授業・討議会参加	11月	◎保・幼5歳児と4年生の交流（小学校パソコン授業） △幼稚園見学（校種間連携）
11月	◎保・幼5歳児と3年生の交流（作品展見学） ◎保・幼5歳児と4年生の交流（小学校パソコン授業） ◎花苗事業（花苗を届ける）	12月	□小学校給食参観（養護教諭） ◎花苗事業（花苗を届ける） △幼稚園見学（校種間連携） □幼稚園と保育所の5歳児交流（保育所） □研究協議 ◎3学期の交流打ち合わせ
12月	◎保・幼5歳児と3年生の交流（小学校） □研究授業・討議会参加 ◎3学期の交流打ち合わせ	1月	◎保・幼5歳児と2年生の交流（小学校）【公開】
1月	◎保・幼5歳児と1・2年生との交流（小学校）【公開】	2月	◎保・幼5歳児と1年生の交流（小学校）
2月		3月	・交流の総括 ・2年間の研究のまとめ
3月	・交流の総括 ・H30年度研究のまとめ		

今後も、交流が小学校・幼稚園・保育所それぞれの子どもたちにとって意義あるものとなるように「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕を共有し、連携・接続を継続していく。

4 指導講評 講師：兵庫教育大学 溝邊 和成 教授

◆交流活動を通して

- ・迎える方は“おもてなし”の心（非認知能力）が育つ。
- ・いろいろな人との関わりの中で、相手に伝え教えることで自分の学びの定着になる。
- ・交流することはお互いにとってよいことばかり
- ・実践そのものが研究で、これからも続けていくことが大切

◆交流する中で大切なことは “振り返り”

Do	子ども・先生は何をしたか	}	こまめに振り返り反省する時
Think	何を考えていたか		これらの“ズレ”を
Feel	何を感じたか		どう見るのかが大切
Aim	目的	}	環境構成を考えていくうえでのポイント 環境構成によって、子どもの動線・思考が 変わっていく
Idea	工夫		
Useful	使い方		
Effect	効果		
Option	他にどんな教材があるか		

◆今日の交流活動を振り返って

- ・活動の始まりで対面式にすることは、子どもに今から始まるということを示すことになるので、とても集中して話を聞くことにつながっていた。
- ・小学生が幼児にまず遊ばせて見守り、その後遊び方を教える。→この方法は先生がモデル
- ・子ども同士が同じ遊びを一緒になって楽しむ。
- ・小学生が幼児の遊びをサポートしていた。
- ・幼児の成功を一緒に喜び、自分の喜びとなっている。
- ・おもちゃで一緒に遊ぶだけでなく、パッチンガエルを一緒に作って遊ぶことを楽しんでいた。→一人ひとりの子どもが主体となった活動
- ・遊び場所を示す全体図があり、子どもにとって分かりやすかった。
- ・遊んでいく中でトラブルがなかった。→活動に相応しい空間と動線が確保されていた。
- ・最後に活動を振り返り、子ども同士言葉で伝え合うことで言語化する。→メンタルな面を共有することができる。交流活動の本質となる。
- ・自分が体験したことや感想を発表していくには、教師の配慮や厚みをもった援助が必要である。

◆研究を通して

- ・指導者の知の共有化

指導案を協力して作るのは難しいけれど、成果・課題を意識し工夫が見られる。

指導案に盛り込まれた言葉の多様性を感じる。

- ・一方通行でない活動設定

招いてもらってお客さんになるだけではない活動となるようにする。

1年間を見通したカリキュラムマネジメントにつながる。

自己発揮保障を工夫し、継続していく。

- ・個別最適化された学びの実現

幼児期から自己発揮し子どもが“遊び込む”“やりきる”経験が大切

幼児・児童自らが「内にある育ちを知り、発揮し、伸ばす」実践



育ちの記録を多くとることで見えてくるものが沢山ある。

異年齢集団学習を充実させることで、学びの自律や協同性がうまれる。

- ・指導案が案のまま終わらず、記録となって残ることが指導のヒントとなり、子どもの育ちにつながっていく。

豊かな学び、交流活動で子どもが育つ

それが実感できた2年間の実践研究となり、何よりも遊びの大切さを感じた。

5 参加者のアンケートから

- ・子ども同士がとてもよく会話をしながら遊んでいる姿が印象的だった。小学生は、5歳児の子どもの思いをよく聞いていて、5歳児も小学生を信頼して思いを伝えて遊んでいて、それは年間を通していろいろな学年と交流を行っているからだと感じた。また、遊びの内容も工夫しながら遊べるもので、子どもたちもいろいろ考えて遊んでいた。
- ・小学生も5歳児もすごく楽しく交流している姿が見られ、何度も交流経験が積み重ねられ、今日があることがよく分かった。交流して楽しただけでなく、子どもたちに何が育っているか、教師は何を得たのか、理解できたことを意識することが大切だと感じた。
- ・就学前施設と小学校の指導者が、子どもの育ちについて「幼児期の終わりまでに育ってほしい」〔10の姿〕を通して、しっかり学び合って取り組んできた成果がしっかり見られた。ただ交流するだけでなく、その中で子どもの学びを見取り共有しながら、またその気づきを子どもの指導に返していくことの大切さを再確認できた。
- ・今回の研究発表を聞いて、1年かけた計画から配慮や取組への姿勢などのつながりが見えてとても学びになった。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」〔10の姿〕から活動の内容を見直し、どのような活動・子どもの姿から何の育ちになったのか振り返ったり職員で共有したりすることが大切であると分かった。

南大江小学校2年生と銅座幼稚園・南大江保育所との交流会計画案

○日 時 令和2年1月23日(木) 13:50~14:35

○場 所 南大江小学校講堂

○ねらい 2年生：年長児を温かく迎え、一緒に楽しく過ごすことにより、思いやりの心を育てるとともに、新年度、上級生になることへの自覚を高めるようにする。
幼稚園：小学校での2年生との交流、また小学校教職員との出会いを通して、小学校生活へのイメージや、期待感を膨らませる。
保育所：小学校での2年生との交流、また小学校教職員との出会いを通して、小学校生活へのイメージや、期待感を膨らませる。

○参加者 南大江小学校2年生1組 30名、2組 30名、3組 31名、4組 30名 計121名

1組担任・2組担任・3組担任・4組担任 うめのみ

銅 座幼稚園 もり組 24名 そら組 23名、計47名 もり組担任・そら組担任

南大江保育所 ゆり組 26名 ゆり組担任

時間	予想される活動	幼稚園・保育所指導者の援助及び配慮	育ちの見直し
13:40	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児に分かりやすい「おもちゃランド」の遊びの図や紹介パネルを作成し、幼稚園・保育所に届ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に手紙のやりとりをする。 ○幼稚園は南門から、保育所は正門から入校し講堂へ移動する。 ○そら組、もり組は講堂前で、ゆり組は保健室前で上靴に履き替え、講堂に向かう。下靴は靴袋に入れて移動する。 ○ヘアで、講堂の後方にならぶ。 ○「はじめの会」をする。 ・2年生が歓迎のあいさつをする。 ・みんなで「さんぽ」を歌う。 ○2年生が「おもちゃランド」の各コーナーのおもちゃの紹介をする。 ○2年生と年長児がヘアで一緒に各コーナーを回っておもちゃで楽しむ遊び。 ・おもちゃの遊び方やルールを、実物や紹介パネルを使って分かりやすく簡単に説明する。 『あそんでみようコーナー』8か所 <ul style="list-style-type: none"> ・どこかカメ ・ひょうろさき ・びっくりはこ ・さかなつり ・ヨットカー ・ころころん ・うごくんぎょう ・さのほりさるさん 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前から届いた遊びの図を見せるなどして内容を伝えたり、幼児から手紙を届けたりして、交流活動に期待がもてるようにする。 ・通学路を意識しなから安全に歩けるよう励ます。 ・小学校の校内では授業中のため静かに歩けるよう励ますとともに、さまざまな教室や掲示物などにも目を向けられるよう言葉をかける。 ・親しみの気持ちを持って元氣よく挨拶できるように励みます。 ・2年生の話をよく聞いて活動に参加できるように励ましかかわらうとする姿を見守る。 ・遊び方やルールの話を聞き、楽しく活動に参加できるように援助する。 ・遊びの中で小学校生活に興味や期待をもつ姿を受け止め、共感し、他児とも共有できるようにする。 ・遊びながら「動くおもちゃ」の動きに興味をもったり、遊び方を工夫したり試したりしているところを認める。 ・小学生に親しみをもち関わっていくように見守り援助する。
13:50	<ul style="list-style-type: none"> ・「つくってみようコーナー」1か所 ・パッチンカエル(進行 小学校担任) ○代表の児童と年長児が感想を発表する。(進行 小学校担任・幼稚園保育所担任) ○2年生がおわりのあいさつをする。 ○上着や靴袋は長椅子からとり、帰る準備をする。 ○講堂より帰る。ゆり組は保健室前で、そら組・もり組は講堂前ホールで下靴に履き替える。 ゆり組は玄関から帰る。そら組・もり組は南門で保護者へ引き渡し。 ○2年生は片づけをして、教室へ戻る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや感じたことを伝えられるよう言葉を引き出し、満足感を味わえるようにする。 ・楽しかった気持ちに共感し、小学生に感謝の気持ちを伝えられるように促す。 ・交流を通して、小学校への親しみや憧れの気持ちをもち、期待感をもって就学できるようにつなげていく。 	
14:30	<ul style="list-style-type: none"> ・「つくってみようコーナー」1か所 ・パッチンカエル(進行 小学校担任) ○代表の児童と年長児が感想を発表する。(進行 小学校担任・幼稚園保育所担任) ○2年生がおわりのあいさつをする。 ○上着や靴袋は長椅子からとり、帰る準備をする。 ○講堂より帰る。ゆり組は保健室前で、そら組・もり組は講堂前ホールで下靴に履き替える。 ゆり組は玄関から帰る。そら組・もり組は南門で保護者へ引き渡し。 ○2年生は片づけをして、教室へ戻る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや感じたことを伝えられるよう言葉を引き出し、満足感を味わえるようにする。 ・楽しかった気持ちに共感し、小学生に感謝の気持ちを伝えられるように促す。 ・交流を通して、小学校への親しみや憧れの気持ちをもち、期待感をもって就学できるようにつなげていく。 	
14:35	<ul style="list-style-type: none"> ・「つくってみようコーナー」1か所 ・パッチンカエル(進行 小学校担任) ○代表の児童と年長児が感想を発表する。(進行 小学校担任・幼稚園保育所担任) ○2年生がおわりのあいさつをする。 ○上着や靴袋は長椅子からとり、帰る準備をする。 ○講堂より帰る。ゆり組は保健室前で、そら組・もり組は講堂前ホールで下靴に履き替える。 ゆり組は玄関から帰る。そら組・もり組は南門で保護者へ引き渡し。 ○2年生は片づけをして、教室へ戻る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや感じたことを伝えられるよう言葉を引き出し、満足感を味わえるようにする。 ・楽しかった気持ちに共感し、小学生に感謝の気持ちを伝えられるように促す。 ・交流を通して、小学校への親しみや憧れの気持ちをもち、期待感をもって就学できるようにつなげていく。 	